



## 今こそ、制度存在意義を満たすとき ピンチをチャンスに変えて！

茨城県行政書士会

会長 國井 豊

3月に入りましたが、寒暖の差の激しい日々が続いております。

会員の皆様、いかがお過ごしですか。お伺いいたします。日頃は会運営をはじめ行政書士制度の推進に対し、力強いご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。

光陰矢の如し。師走、年明けの気忙しい日々も束の間の出来事となり、早いもので新年度を迎えます。可能な限り現年度を総括し、新年度の事業計画や予算の策定に注力したいと思います。そこで、コロナウィルスの影響をどこまで盛り込むべきなのか、正直苦心しております。一般的に私たち士業は、景気に左右されにくい業種の一つとして捉えられがちです。仮に影響を受けても遅効性があり、全体が回復へと向かう切り返しの波に乗って、ダメージを最小限に抑え立ち上がるイメージがあるようです。たしかにその特質からか、リーマンショックや東日本大震災の際には、他の業種のように破産や廃業といった事例の極端な増加はみられませんでした。はたして、今回も同じような帰結となるのでしょうか?!メディアの報道をみるたびに戦々恐々とならざるを得ません。

不安を煽るわけではありませんが、今回はかつてないほどの危機的状況との指摘が数多くみられます。国内の災害と違い影響が全世界に及ぶこと、100年に一度といわれたリーマンショックでさえ、規模の差異はあっても過去の経験則からそれなりの処方箋を持ちあわせており、ウィルスは羅針盤がなく終息を見通せないこと等々、まさに総悲観の局面といえます。さらにオリパラの動向次第では、平成バブル崩壊以上の打撃を被るとの負の予測ばかりです。

そうしたことから、景気に敏感な個人や中小の事業主をクライアントとする行政書士も、例外なく大きな影響を受けることとなりそうです。ここ数日、クライアントの事業の中止や規模縮小等々によって、影響を受けた会員の話を耳に

するようになりました。国や県は景気対策や様々な支援策を打ち出しはじめました。こうした展開を最大限活用することで、地域社会で活動し、人に寄り添う行政書士の存在意義を最大限発揮したいと思います。情報のスムーズな発信や制度のさらなるPRにより、一人ひとりの会員が効率的かつ効果的な活動を展開できるような環境創りに邁進します。あわせて、世の実情を最も把握する行政書士ならではの施策要望等々を行政に対し、積極的に行ってまいりたいと思います。皆様のご活躍を期待してやみません。

ところで、2月22日は行政書士法制定記念日ですが、議会、行政、八士会や関係団体の皆様をお迎えし、恒例の新春交流会を盛大に開催することができました。こうした活動は一見華やかですが、業務とは直接関係がありませんので、どうしても不要とみられがちです。しかし、風と桶屋の関係とでも言いましょうか、タイムラグがあり見えにくいかもしれませんが、制度の社会的認知度を高め、一人ひとりの行政書士の地位向上に繋がっていくはずですよ。

いずれにしても、会員の皆様のご理解とご協力によって、これまで数多くの対外活動を進めることができました。畑を耕し、種を蒔いて、早くも収穫できたものについては、いうまでもありませんが、まだ芽が出ないもの、これから結実しそうなものについては、十分な取り組みをしていかなければなりません。事業総括とあわせ、展開の強化を図ってまいります。

振り返ってみれば、これまで試行錯誤の連続、反省することしきりです。いつの時代も制度や組織の拡充には、会の一致結束が必要不可欠です。人は変わりますが、理念は不変です。制度推進が国民の利益に繋がるという崇高な大義のもと、大きく飛躍し期待される行政書士像をめざし、執行部一丸となって働きます。時節柄、会員の皆様のご健康ご活躍をお祈りいたします。